

「中学・高校における特別活動」

明治大学付属中野中学・高等学校 学校長 清水 孝

東京に三度目の緊急事態宣言が発令され、依然として先が見通せないコロナ禍にあつて、感染予防と教育活動を両立させるための対応が一年以上続いていきます。この間、学校はオンライン授業、分散登校、短縮授業と授業形態に頭を悩ますと共に、教室の換気や消毒にも気を配り、行事は中止や延期、見直しを迫られるなど、かつて経験をしたことがない局面を、学校運営に対する教職員の真摯な思いで乗り切る日々が続いています。

卒業していく高校三年生は何の前触れもなく突然の引退となり、送別会もなく部を去ることになったことは、理不尽としか言いようがありませんでした。

定期演奏会の中止を決めた後の三月下旬に、卒業した部員とその保護者より、音楽室での記念写真の撮影の要望が寄せられました。例年、定期演奏会後に場所を替えて卒業生と保護者の送別会を行います。それが叶わない現状でその代替として、せめて卒業生だけでも、思い出深い音楽室での写真を残したいということでした。そこで当日は、卒業生には知らせず、中学一年生から高校二年生の部員全員で迎えることとしました。

昨年三月から三ヶ月間に及ぶ臨時休校により、三学期は突然の終了を余儀なくされました。当時、私は本校音楽部の顧問を務めており、一年間の活動の集大成である定期演奏会の開催に向けて、例年通り追い込みの練習に取りかかるところでした。しかし、休校措置に伴いクラブ活動も休止せざるを得ず、それにより定期演奏会は中止となり、生徒には我慢を強い結果となりました。殊に、

たが送別会とすることができ、卒業式を行わなかったこともあり、卒業生にとっては高校生活に区切りをつけることができたりとなりました。中学・高校時代を共に過ごした仲間同士の結びつきを間近に見ることができた私は、改めて特別活動の価値に気付かされました。

年度が改まった令和二年度は、休校措置のまま迎えることになりました。学校再開は六月。しかし再開となるも分散登校、短縮授業となり、特別活動も大きく制限を受けることになりました。休校期間はオンラインに切り替え授業を継続しましたが、授業進度の遅れは否めず、また低学年ほど学習に対する取り組みや理解度に差が生じていました。学校再開後直ぐの一斉授業は叶わず、短縮授業による分散登校となったため授業進度は通常よりかなり遅く、本校も夏期休暇期間を短縮することで授業時間を確保せざるを得ないという状況でした。

こうした中で、クラブ活動の各種大会や発表会を目指して活動を続ける生徒は、感染予防に努めながら、限られた時間や条件の中、各々の目標に向かって、今できることを継続

していました。しかし、感染の終息が見込めない中、予定されていた各種大会や研究発表会は軒並み中止や延期となり、また最大の学校行事である文化祭までも、その実施を見送らざるを得ない状況となり、目標を失った生徒には、涙する者も少なくありませんでした。

二期は、行事を取り止めることで生じた時間を全て授業にあて、臨時休校による学習の遅れの挽回を目指しました。授業進度は取り戻せたものの、月曜日から土曜日まで授業のみの学校生活の味気無さや生徒の不完全燃焼が際立ち、特別活動が生徒の成長に不可欠であることを再認識させられた学期となりました。

学習は学校生活の要ですが、クラブ活動や生徒会活動、学校行事といった特別活動が、生徒の情操を養い、人間関係を豊かなものにすると共に、各々の主体的な取り組みによる自己肯定感や連帯感の涵養に大きく寄与するということは間違いありません。こうした生徒の非認知能力も高めるべく、今後も従来よりの知・徳・体を尊重した学校教育を展開していく所存です。

当日、約一ヶ月ぶりに顔を合わせた生徒たちの嬉しそうな様子、特に、思いも寄らず後輩と対面できた卒業生の喜びは印象的で、パートの後輩と談笑したり、後輩から記念品を受け取ったりと、簡易的ではありません